

ラジオ漫筆

# 迷信はわれわれの周りにも

## ハンダ錫の錫先はなぜ銅製なのか？

冒頭から誠に失礼な申し様ではあるが、電気ハンダ錫の錫先には何故銅を用いているのか？と問われたら、諸兄は何とお答なさる。銅は熱伝率が良いし、ハンダの乗りが良いからだ……。誠に以て御名答、NHKの「私は誰でしょう<sup>1)</sup>」だったら……ハイ 1000 円……という所だろうが、電気ハンダ錫の錫先には絶対銅ではなくてはならないか、銅の方が具会が良いか？となると一寸考えさせられる。電気ハンダ錫を用いている人々にとっては、鑓も又必需品となっている。ヤスリでゴシゴシやってはハンダの上を コテコテ となぶらせてているのが現状ではないか？銅は誠に酸化し易い鉱物！である……。ハンダ錫の使用中は常に電気を通して尻から高温で煽られているから、錫先の銅は嫌も応もなく空気中の酸素とタイアップして酸化銅に出世する……。その結果は仲良くしてもらいたいハンダをポイコットして……エイ面倒などばかり鑓でゴシゴシやるから、見る見る内に錫先は消滅して使いものにならなくなる。「風が吹けば酒屋が儲かる」の方程式？がここにも成立して、ラジオ・マンと鑓は切っても切れない腐れ縁が生れ、鑓屋が儲り、錫先のスペヤーが売れるからハンダ錫メーカー氏も儲かる……程でもないかな……。

そもそも錫先に銅を用いたのは……よう大統領……炙り錫（ブリキ屋氏が愛用しているアレですナ……hi）の場合にこそ必要なので、熱の保存性高く、ブリキ屋氏が用いる塩酸にも良く耐える等々の事から用いられた……らしい……。

だが我々ラジオ・マンの愛用する電気ハンダ錫は、錫先が熱を保つ事は余り重視されない……。四六時中ヒーターで煽っているのだから……。むしろ容易に酸化し難くて、ハンダの乗りの良いものが立候補?! の資格ある訳。

では何が電気ハンダ錫の錫先として良いのだろう、メーメー（迷迷）研究室で鋭意実験の結果……!! 真鍮製錫先の使用により、完全に鑓の追放に成功した。

真鍮錫先は銅のそれの様に真黒く酸化する事も少く、一度ハンダを盛り込んで錫先は常に気持良く適当に輝いており、何時でもハンダと仲良く握手してくれる。イライラしながら鑓でゴシゴシやる必要もないから、錫先はいつも程良くトン

1) 【編注】NHK が 1949 年から始めたクイズ番組。1946 年 12 月開始の「話の泉」、1947 年の「二十の扉」に続く人気番組。1949 年には「とんち教室」も始まった。これらの番組は GHQ の指示により始められたもので、アメリカの人気番組の翻案だった。

ガッている。全くハンダ<sup>こて</sup>鎍<sup>じり</sup>の先だけはトンガラカッいてもらわなくては困るものだ……hi。

要するに電気ハンダ<sup>こて</sup>鎍<sup>じり</sup>の鎍<sup>じり</sup>先には銅を用いなくてはならないとされていた我々の先入感は、その昔あぶり鎍<sup>じり</sup>時代の考え方をその儘に、迷信的に信奉して来たものらしい。

ハンダ<sup>こて</sup>鎍<sup>じり</sup>メーカー氏も、電気ハンダ<sup>こて</sup>鎍<sup>じり</sup>のニュー・フェースとして真鎍<sup>じり</sup>鎍<sup>じり</sup>先のものを販売されでは如何、儲けの方はよろしく、メーメー研究室へも御折半の程を……。いや儲からない事になるのかな……。

(真鎍<sup>じり</sup>鎍<sup>じり</sup>先の具合の良い事は事実です。諸兄の御試用をお推めします。)

(T.S 老)

## PDF 化にあたって

本 PDF は、

『無線と実験』(1950 年 1 月号)  
を元に作成したものである。

PDF 化にあたり、旧漢字は新漢字に、旧仮名遣いは新仮名遣いに変更した。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

### ラジオ温故知新

<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>

に、

ラジオの回路図を

### ラジオ回路図博物館

<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>  
に収録してある。参考にしてほしい。